

## 公開情報 2020年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

#### 【図表】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

#### 【解説】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数

2020年 年報（2020年1月～12月）では101医療機関からデータの提出があった。総入院患児数23,645人中、807人（3.4%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では989人中294人（29.7%）、1000g～1499gの児では1,262人中91人（7.2%）、1500g以上の児では21,394人中422人（2.0%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児807人の感染症原因菌は、CNS 106例（13.1%）、MRSA 103例（12.8%）、MSSA 94例（11.6%）とブドウ球菌属が全体の約4割を占めた。次いで、緑膿菌26例（3.2%）、カンジダ25例（3.1%）と続いた。また、その他の菌種の報告は286例（35.4%）、菌不明は167例（20.7%）であった。

## 公開情報 2020年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 807 人の感染症分類は、敗血症 258 例（32.0%）と肺炎 206 例（25.5%）が全体の約 6 割を占め、皮膚炎 73 例（9.0%）、腸炎 31 例（3.8%）、髄膜炎 13 例（1.6%）と続いた。また、その他の感染症の報告は 226 例（28.0%）であった。

2020 年のデータが未提出の 15 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、集計から除外した施設はなかった。

#### 疑義データの条件

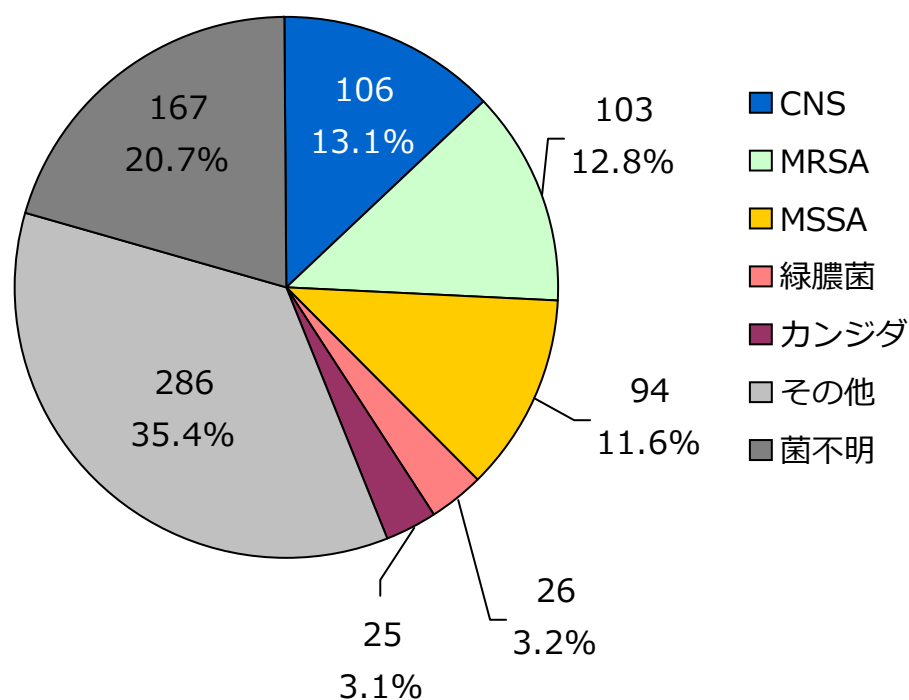
- 菌種別および感染症別の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

## 1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	989	294	29.7%
1,000～1,499g	1,262	91	7.2%
1,500g～	21,394	422	2.0%
合計	23,645	807	3.4%

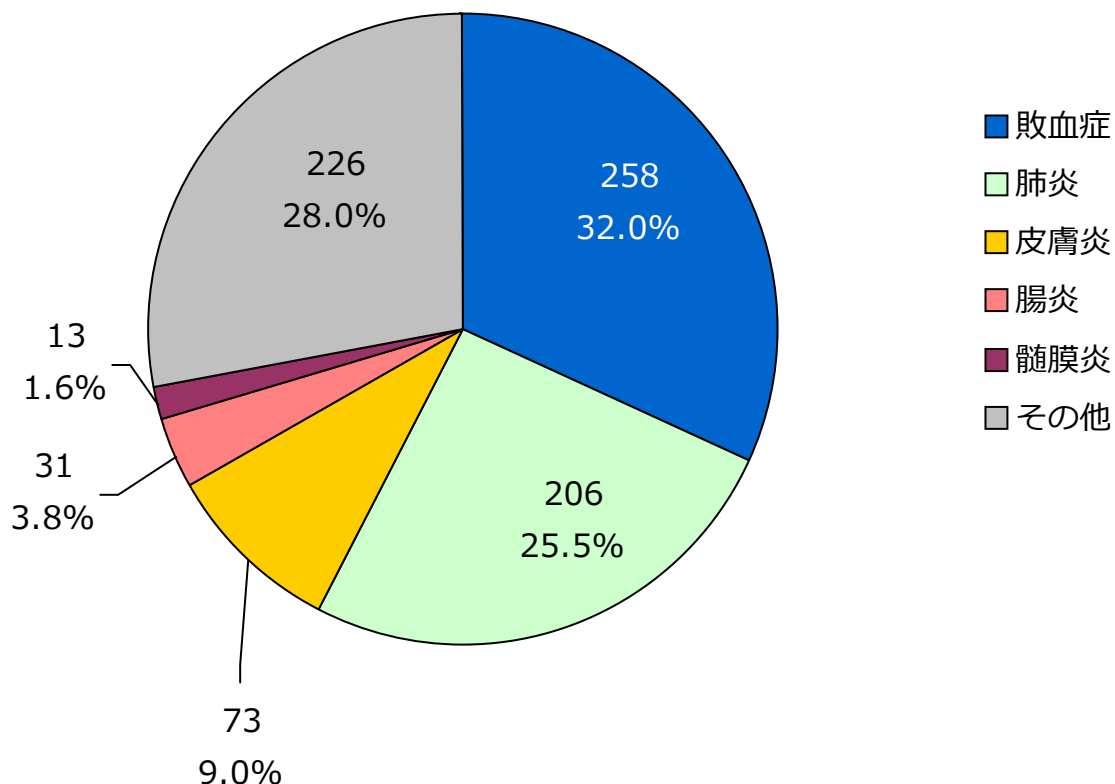
(集計対象医療機関数：101)

## 2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 807)



(集計対象医療機関数：101)

### 3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 807)



(集計対象医療機関数：101)